

シンポジウム | シンポジウム | [シンポジウム5] キックオフシンポジウム “食べる支援” から “Comfort feeding only” まで

シンポジウム5

キックオフシンポジウム “食べる支援” から “Comfort feeding only” まで

座長：

平野 浩彦（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター）

窪木 拓男（岡山大学 学術研究院 医歯薬学域 インプラント再生補綴学分野）

2023年6月17日(土) 15:10 ～ 16:30 第2会場 (3階 G303)

企画：特任委員会（認知症関連）

【平野 浩彦先生 略歴】

日本大学松戸歯学部卒業 医学博士

平成2年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科 研修医

平成3年 国立東京第二病院 口腔外科 研修医

平成4年 東京都老人医療センター 歯科口腔外科主事

平成14年 同センター医長

（東京都老人医療センター・東京都老人総合研究所の組織編成により東京都健康長寿医療センターへ名称変更）

平成21年 東京都健康長寿医療センター研究所 専門副部長

平成28年 同センター病院 歯科口腔外科 部長

平成31年 同センター研究所 口腔保健と栄養研究テーマ研究部長（兼任）

令和4年～ 現職

日本老年学会 理事

日本サルコペニア・フレイル学会 理事

日本老年歯科医学会 理事・専門医・指導医・摂食機能療法専門歯科医師

日本口腔検査学会 理事

日本老年医学会 代議員

日本大学 客員教授・東京歯科大学 非常勤講師・昭和大学歯学部 非常勤講師

【窪木 拓男先生 略歴】

2021-現在： 日本補綴歯科学会副会長

2018-現在： 認知症と口腔機能研究会 会長

2018-現在： 岡山大学病院デンタルインプラントセンター センター長

2017-現在： 日本学術会議 連携会員

2016： 岡山大学副学長（研究力分析担当）

2012-2015： 岡山大学 歯学部長

2009-2011： 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 副研究科長

2007-2009： 岡山大学医学部・歯学部附属病院 副病院長（教育・研究担当）

2003-現在： 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

[SY5-2] 歯科が担う在宅医療での食支援における役割

○下村 隼人¹ (1. 医療法人社団駿陽花 しもむら歯科医院)

【略歴】

2004年 徳島大学歯学部歯学科 卒業

2019年 しもむら歯科医院 開業

2021年 医療法人社団 駿陽花 設立

（所属学会等）

加藤塾（全国訪問歯科研究会）
日本摂食嚥下リハビリテーション学会
日本老年歯科医学会
日本リハビリテーション栄養学会
日本臨床栄養代謝学会

【抄録（Abstract）】

訪問診療専門で活動をしていると「口から食べる事」に関するご依頼を多数いただく。脳血管障害や認知症などのトラブルで経口摂取をすることに制限がかかった方、もしくは非経口摂取になった方が口から食べたいといった内容が多い。

「経口摂取に制限」がある場合そこには何かしらの理由がある。医療者側には医学的な判断がある。「口から食べたい」と希望される患者、または家族にも思いがある。

在宅という医療現場では経口摂取に関して医療者側と家族側の考えにジレンマが生じている。倫理的なことも絡んでくるので非常に難しい問題になることも稀ではない。そこで何を基準に判断するのかはこれからも議論すべき課題なのかもしれない。

在宅で食支援を行うためには単一職種では到底成立できず、多職種連携が必要なのは周知の事実である。更に付け加えると各職種の食支援への思いや考え方が患者を向いているならば支援の効果は大きくなると考える。

今回は在宅にて非経口摂取から経口摂取に移行する事ができた症例を通して、在宅医療の現場で歯科として携わる食支援に思うことを述べる。